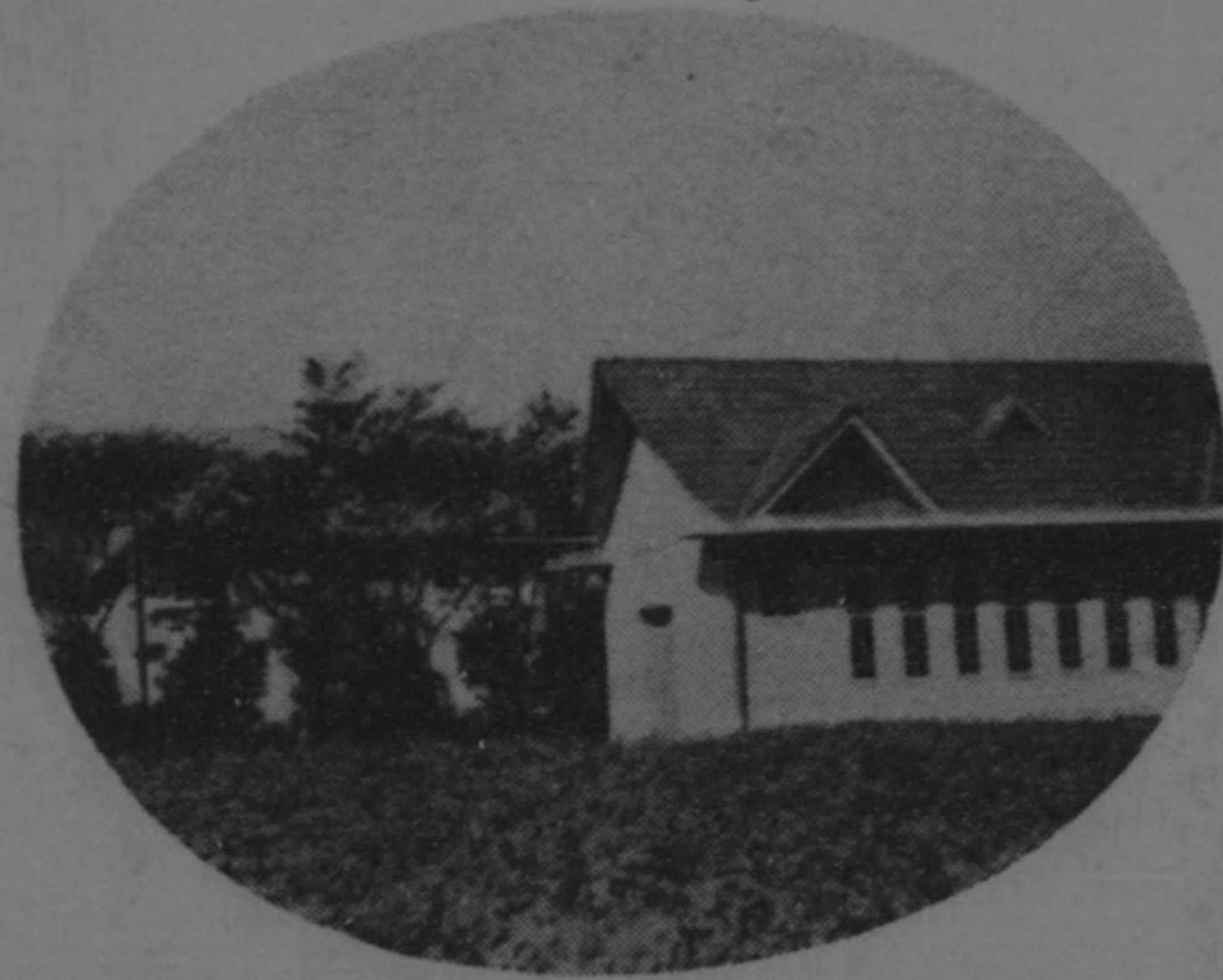


特 246

795

財 團 法 人
六 踏 園 概 況

11.11.1



六 踏 園 東 京 事 務 所

○二ノ一樓既所本京東
三七四二田墨話電



0039314-000

特 246-795

財 團 法 人 六 踏 園 概 況

六 踏 園 東 京 事 務 所

昭 和 1 1

AGI

246
795

六踏園

令般其事業御獎勵

思召ナ以テ金壹封下賜

候事

昭和十二年二月十日

宮内省



六踏園

社會事業ニ關シ從來盡

力スル所勉カラヌ仍テ茲ニ

補助金壹百圓ヲ交付ス

尚一層奨励シテ事業ヲ進

展ラシムコトヲ望ム

昭和十年三月十五日

東京市長塚虎太郎

六踏園

本會ニ御下賜金ノ趣旨ヲ

奉戴シ貴園事業助成トシテ

金壹千五百圓ヲ交付ス

昭和十年二月十日

恩賜
財團
慶應義塾會
會長
青浦登吾

六踏園

從來本府社會事業ニ盡力スル

處妙カラヌ仍テ茲ニ補助金壹

千圓ヲ交付ス今後一層事業進

展ノ爲淬礪セラシムコトヲ望ム

昭和十年二月十日

東京府知事從四位勳等横山助成



事務女關



事務室內部



園長故母堂



園長夫人



園長



事務所 玄関



事務室 内部



園長 故母堂



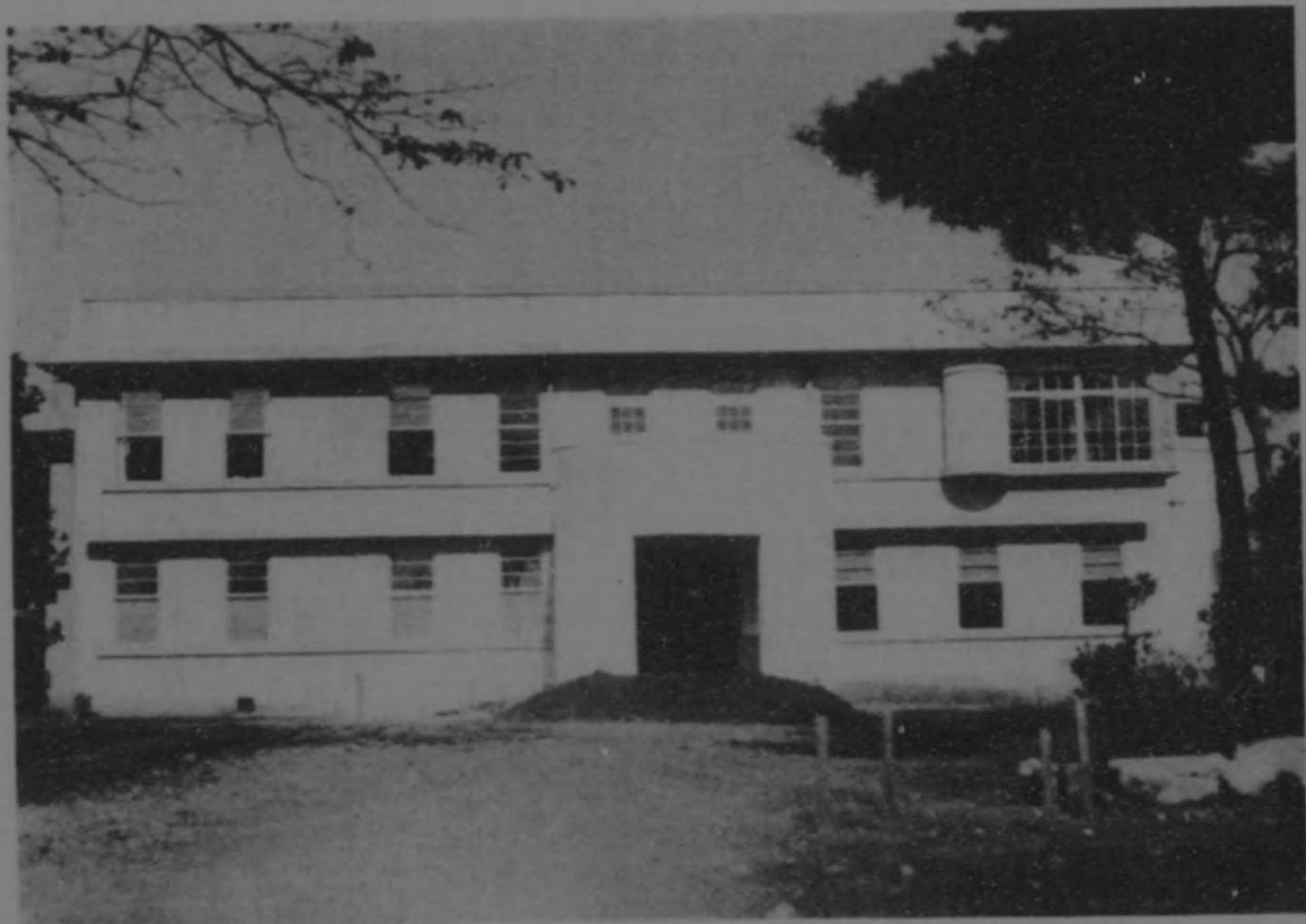
園長 夫人



園長



(ル賜ヲ榮ノ遣差御從侍へ場農島大月五年四和昭) 達傳旨聖



館 本 場 農 布 調

六踏園概況目次

一、財團法人六踏園許可書	三
一、財團法人六踏園設立趣旨	六
一、財團法人六踏園寄附行爲	四
一、沿革	二
一、設備の概要	一五
1. 東京事務所	一五
2. 調布第一農場	一五
3. 大島農場	一六
4. 烏喰農場	一八
5. 阜月學園	一九
6. 阜月學園洗濯部	二〇
7. 調布温室部	二〇
8. 調布織物部	二一
9. 家具部	二三
10. 淡路學園大阪事務所	二三
11. 淡路學園	三三
12. 同大阪印刷部職業指導所	三四



13 高崎農場.....三五

14 高鍋學園.....六六

15 養素部.....六六

一、入園及在園費.....三〇

一、假退園及退園.....三三

一、少年に關する調査表.....三三

1. 入園少年本籍府縣別.....三一

2. 入退園狀況.....三三

3. 入園事由.....三三

4. 出生ト保護者關係.....三三

5. 收容當時年齡.....三四

6. 收容當時ノ教育程度.....三五

7. 不良行爲ノ經過.....三五

8. 創立以來退園生ノ在園期間.....三五

一、少年法ト六踏園.....三六

一、役員氏名.....三七

設立者 中川庫吉

昭和十年六月二十四日付申請財團法人六踏園設立ノ件許可ス

昭和十一年九月八日

司法大臣 林 賴三郎 印

財團法人六踏園設立趣旨

人類愛ト堅キ信念トヨリ弱キ女性ノ身ヲ以テ其ノ全生涯ヲ助一條ノ道ニ捧ゲ天理教東本中教會今日ノ基礎ヲ築ケル中川與志子ハ我が母ナルト共ニ又不斷ニ讃仰シテ已マザル道ノ師ナリ六踏園ハ此ノ母ガ教内幼年教養ノ爲大正二年夜學校ヲ設立セシニ其ノ端ヲ發シ母亡キ後尊キ遺業トシテ不肖之ヲ繼承セシモノナレバ其ノ助成育成ハ即チ母ニ仕フル所以ニシテ我が重要ナル使命ノ一ト心得來リシモノナリ然ルニ偶々司法當局ヨリ不良少年保護事業ガ犯罪ヲ防止シ國民利福ヲ増進スルニ缺クベカラザル施設ナルコトヲ聽キ斯業ニ従事スルコトハ宗教家トシテ本分タルノミナラズ

皇恩ノ萬一ニ奉戴シ且ハ敬慕スル母ノ遺志ニ迎合スル所以ナルコトヲ痛感シ大ニ共鳴スル所アリ大正十四年五月教内青少年修養ノタメ調布農場ヲ開設スルヤ同時ニ司法少年保護團體タルコトヲ認定ヲ受ケ少年法ニ依ル少年ノ保護事業ヲ開設ス爾來必要ニ應ジテ逐年事業

ヲ擴充シ今ヤ調布農場ノ外東京府下ニ大島分園、皐月學園（少女收容所）千葉縣下ニ烏喰分園、兵庫縣下ニ沼島學園、大阪府下ニ同分園大阪印刷部職業指導所ヲ經營シ東京、大阪兩少年審判所ノ委託ニ係ル少年少女ヲ收容シテ保護教養ニ從ヒ創立以來ノ保護實人員壹千壹百七拾五名此ノ延人員參拾貳萬四千九百貳拾壹名ニ達シ更ニ名古屋少年審判所ノ増設ニ伴ヒ同地ニモ相當ノ收容所ヲ新設スベク目下計畫中ナリ斯クシテ私財ヲ投ジ斯業ノタメ聊カ微力ヲ盡シ來タリシ處幸ニ事業漸ク其ノ緒ニ就キ形態稍整フルニ至リシヲ以テ此ノ際別紙目錄ニ掲グル財産ヲ寄附シテ組織ヲ財團法人ニ改メ基礎ノ鞏固ト事業ノ恒久性トヲ確保シ本園ノ健全ナル發達ニ資セムトスルモノニシテ不肖園長トシテ終生其ノ職ニ留リ今後ニ於テモ必要ニ隨ヒ應分ノ出資ヲ辭セズ育てノ親トシテ本園事業ノ完成ニ獻身セムトスルモノナリ

昭和十年六月廿四日

設立者 中川 庫吉

財團法人六踏園寄附行爲

六

第一條 中川庫吉ハ第四條ニ定メタル目的ノ爲別紙目錄ニ掲グル財産ヲ寄附シテ財團法人ヲ設立ス

第二條 本財團法人ハ財團法人六踏園ト稱ス

第三條 本財團法人ハ事務所ヲ東京市本所區厩橋一丁目二十番地ノ一ニ置ク

第四條 本財團法人ハ少年法ノ規定ニ基キ同法所定ノ保護少年ヲ教養スルヲ以テ目的トス

第五條 本財團法人ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 少年審判所ヨリ委託ヲ受ケタル少年ノ保護教養

一 矯正院ヨリ假退院ヲ爲シタル少年ノ保護善導

一 少年訓育上必要ナル事業所ノ經營

一 少年ノ保護ニ關スル相談所ノ設置

一 少年ノ保護ニ關スル刊行物ノ發行

一 前各號ノ外少年保護ニ關シ必要ナル各種ノ事業

第六條 本財團法人ノ設立ノ日ニ於ケル資産ハ別紙財産目錄ニ掲グル財産ヨリ成ル

第七條 本財團法人ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲基本財産ヲ設ク

基本財産ハ別紙財産目錄ニ記載ノ土地、建物及將來之ニ編入セラルヘキモノヨリ成ル基本財産ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス但シ特ニ必要アル場合ハ評議員會ノ議決ヲ經テ處分スルコトヲ得

第八條 本財團法人ノ一切ノ財産ハ理事會ノ議決ヲ經テ園長之ヲ管理ス

日常ノ支出ニ必要ナル現金ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ若クハ確實ナル有價證券ニ換フルコトヲ得

第九條 本財團法人ノ經費ハ左ニ掲クルモノヲ以テ支辨ス

- 一 財産ヨリ生スル果實
- 一 奨勵金、補助金、委託補給費及寄贈金品
- 一 事業收入
- 一 其ノ他ノ收入

第十條 本財團法人ノ會計ハ毎年度年四月一日ニ始リ翌年三月一日ニ終ル

第十一條 本財團法人ノ豫算ハ毎年度開始前理事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ決算ハ理事會

七

ノ認定ニ附シ且ツ評議員ニ報告スルモノトス

第十二條

本財團法人ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 園長 一名
- 一 副園長 一名
- 一 常務理事 一名
- 一 理事 五名乃至十名
- 一 監事 二名乃至三名
- 一 評議員 十名乃至二十名
- 一 顧問 若干名

第十三條

理事ノ内一名ヲ園長、一名ヲ副園長トシ理事ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

理事ノ内一名ヲ常務理事トシ園長之ヲ委囑ス

理事及監事ハ評議員會ノ議決ヲ經テ園長之レヲ委囑ス

評議員ハ理事會ノ議決ヲ經テ園長之ヲ委囑ス

顧問ハ理事會ノ議決ヲ經テ園長之ヲ委囑ス

第十四條

園長ハ本財團法人ヲ代表シ園務一切ヲ總理ス

副園長ハ園長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

常務理事ハ園長ノ旨ヲ受ケテ園務ヲ處理ス

第十五條

顧問ハ重要ナル事項ニ付キ園長ニ意見ヲ述ヘ又ハ園長ノ諮問ニ應ス

第十六條

理事、監事及評議員ノ任期ハ各三ケ年トス但シ補缺ノ場合ハ前任者ノ殘任期間在任ス

理事及監事ハ各其ノ任期滿了ノ場合ニ於テモ後任者ノ就任スル迄ハ引續キ其ノ職務ヲ行フモノトス

第十七條

理事會ハ必要ニ應シ園長之ヲ招集ス理事三名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シ招集ノ請求アリタルトキハ亦同シ

理事會ハ理事二分ノ一以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス但シ同一ノ事項ニ付再度招集スルモ尙定數ニ滿タサルトキハ此ノ限りニ在ラス
理事會ノ議事ハ園長議長トナリ過半數ニ依リ之ヲ決ス可非同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

相當事由アルトキハ園長ハ書面ニ依リ理事ノ贊否ヲ求メ理事會ニ代ワルコトヲ得

第十八條

園長必要アリト認ムルトキハ評議員會ヲ招集ス
評議員會ハ園長ノ求メニ依リ重要ナル事項ヲ審議ス

前條ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第十九條

本寄附行爲ノ目的ヲ遂行スルニ必要ナル諸般ノ細則並事業所ニ關スル規定ハ
理事會ノ議決ヲ經テ園長別ニ之ヲ定ム

第二十條

本寄附行爲ノ規定ハ園長ノ發議ニ基キ理事四分ノ三以上ノ同意アルトキハ主
務官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

附 則

第二十一條

中川庫吉ハ終身理事及園長トス 但シ辭任スルコトヲ妨ゲス 後任園長ノ
選任ハ中川庫吉生存中ハ之ヲ指名ス 指名ナキトキハ理事會之ヲ選任ス

第二十二條

左ノ者ハ本財團法人設立當初ニ於ケル理事トス
長崎縣長崎市馬町二十四番地
長崎控訴院檢察長 宮 城 長 五 郎
東京市日本橋區濱町二丁目八十八番地
實 業 家 星 野 錫
東京市本所區江東橋三丁目九番地
東京市會議員 杉 ノ 原 英 太 郎
東京市京橋區銀座西二丁目三番地
六 踏 園 主 中 川 庫 吉
東京市會議員 中 南 定 太 郎

其ノ他設立當初ニ於ケル役員ハ第十三條ノ規定ニ不拘總テ中川庫吉之ヲ選任ス

昭和十年六月二十四日

設 立 者 中 川 庫 吉

- 大正二年 中川與志子私財を投じて修徳夜學校を設置す
- 大正十一年四月 中川庫吉修徳夜學校を繼承す
- 大正十四年五月 天理教々内青年の修學道場として調布農場を施設經營す
- 大正十五年十月十五日 司法大臣より司法少年保護團體の認可を受く
- 同年 十月九日 調布農場開園式舉行
- 昭和二年二月十一日 事業御獎勵の思召を以て宮内省より金一封御下賜
- 同年 五月 多摩御陵にて御使用の庭燎舎一棟下付さる
- 同年 九月 新宿御苑内葬場殿舎木材の一部東京市より下付され紀念講堂を建築す
- 同年 十一月 伊豆大島元村に大島分園設置
- 昭和三年二月十一日 事業御獎勵の思召を以て宮内省より金一封御下賜
- 同 上 慶福會々長より震災善後施設補助費として金一千圓交付
- 昭和三年三月十六日 東京市本所區厩橋一丁目廿番地に六踏園總事務所を設置す
- 同年 四月 司法省、東京府、東京市より助成金各一封交付
- 昭和四年二月十一日 事業御獎勵の思召を以て宮内省より金一封御下賜
- 同 上 慶福會々長より震災善後施設補助費として金一千圓交付
- 同 上 東京府東京市より助成金各一封交付
- 昭和四年五月十四日 東京市向島區吾嬬町西七丁目廿七番地に皐月學園設置

- 昭和四年五月三十日 天皇陛下伊豆大島行幸の御砌侍從御差遣の榮を賜る
- 昭和五年二月十一日 事業御獎勵の思召を以て宮内省より金一封御下賜
- 同 上 司法省、東京府、東京市より各助成金一封交付
- 同年 四月十六日 千葉縣山武郡横芝町宇鳥喰下に鳥喰農場を設置
- 同年 五月十日 皇太后陛下より皐月學園及六踏園へ金一封づつ御下賜
- 同年 八月 兵庫縣三原郡沼島江ノ尾へ沼島學園設置
- 昭和六年二月十一日 事業御獎勵の思召を以て宮内省より金一封御下賜
- 同 上 司法省、東京府、東京市より助成金各一封交付
- 同年 四月一日 宮崎縣兒湯郡上江村大字上江に高鍋學園設置
- 同年 十一月十五日 大阪市東成區林寺町二百七十一番地へ沼島學園大阪印刷部職業指導所設置
- 昭和七年七月廿三日 大阪市天王寺區谷町九丁目廿九番地沼島學園大阪事務所設置
- 同年 十二月九日 住友合資會社々長より助成金一封交付
- 昭和八年二月十一日 事業御獎勵の思召を以て宮内省より金一封御下賜
- 同 上 司法省、東京府、東京市より助成金各一封交付
- 同年 三月一日 三菱合資會社より助成金一封交付
- 同年 四月九日 調布第三農場に織物部を設置す
- 同年 十二月十四日 司法省より事業獎勵のため助成金一封交付
- 同年 十二月廿六日 住友合資會社々長より助成金一封交付
- 昭和九年二月十一日 事業御獎勵の思召を以て宮内省より金一封御下賜

同 上 東京府、東京市より助成金各一封交付
 同 年十月一日 日本少年保護協會より表彰さる
 同 年十一月廿七日 司法省より奨励金一封交付
 同 年 十二月 住友合資會社より助成金一封交付
 昭和十年二月十一日 事業御奨励の思召を以て宮内省より金一封御下賜
 同 上 司法省東京府東京市より助成金一封交付
 昭和十二年二月十二日 事業御奨励の思召を以て宮内省より金一封御下賜
 同 上 司法省、東京府、東京市より助成金一封交付
 昭和十二年二月十二日 調布農場本館改築に付き慶福會より一千五百圓交付
 同 年 五 月 調布農場本館改築
 同 上 沼島學園淡路島に移轉し淡路學園と改稱す
 同 年九月八日 申請中なりし財團法人に組織變更主務大臣より認可あり財團法人六踏園と改稱す

設備の概要

(一) 六踏園東京事務所 (東京市本所區既橋一ノ二〇所在) (電話墨田二四七三番)

東京事務所は六踏園各分園の施設と共に事務統制のため昭和三年三月現在の場所に其の設置を見たるものなり、爾來同所事務主任及補導書記を置き庶務、調度及保護教養一切の事務を統管し各分園は必らず東京事務所を経て事務を遂行することゝ定め居れり。

- 一、少年少女相談部
- 一、各園假退園生の觀察保護
- 一、各園退園生の職業紹介

(二) 調布第一農場

所在地 東京府北多摩郡調布町下石原二五五三番地 (電話武藏調布一五六 京王電車調布驛下車北へ約六町)

設立の日	大正十四年五月	棟	十
認可の日	大正十五年十月十五日	坪	五百〇四坪
授業科目	實科、農、園藝實習法、學科、尋卒程度、教練	任	一名
土地の總坪數	一萬六千坪	職員數	六名
		準職員數	六名

少年收容數 定員六十名
 創立以來の少年數 實人員 七百九十七名
 延人員 八千七百二十四名
 十三萬三千二百八名
 現在の少年數 五十名(但三月末日迄)

一六

地勢 附近は土地高燥にして人家なし、武蔵野特有の雑木林の中にあり、都會の風塵より全く離れて晴耕雨讀の理想郷とも云ふべく、少年の心身を陶冶するには絶好の土地なり。

教育方針 教養は是を實科教養と學科教養とに分ち、實科教養にありては先づ農業(園藝を含む)作業にありては農業乃至園藝の素養を習得せしむると共に、心身の鍛錬を得せしめ又學科教養は是を徳育と智育及體育の三部に分ち、徳育にありては主として宗教的情操教育によりて克己心、公德心、愛國心等の涵養に努め、智育にありては別項授業課程中に示せる如き學科を施し、以て圓滿なる常識公正なる理解力乃至判断力を得せしめ、傍ら獨立後必要なりと認むる算筆の習得をなさしむ、又體育は高等小學校程度の體操より初歩の軍隊教練に於ける兵式體操を課す

運動、娛樂 屋外にありては野球、蹴球、テニス、機械體操、適時散歩等をなさしめ屋内にありてはピンポン、讀書、圍碁、將棋談話會等を行はしむ、亦ラヂオの設備あり。

(三) 大島農場

所在地 東京府下大島元村字北野
 設立の日 昭和二年八月
 認可の日 昭和二年十二月



大島農場

授業科目 實科 農業、園藝、植林、畜産
 學科 國語、作文、習字
 土地の總坪數 六萬八千五百五十坪
 棟數 十棟
 坪數 二百七十七坪
 主任 一名
 従業員 十名 準職員 六名
 少年收容數 定員 七十名

創立以來の少年數 (實人員二百五十四名)
 (延人員九萬六百七十二名)

同家庭委託の少年數 (實人員五十八名)
 (延人員二萬一千三百五十四名)

現在少年數 二十五名 但三月末日迄

地勢 當園は大島元村字北野の海岸に在り。朝には三原の噴煙を仰ぎ夕には海を隔て、豆相の連山を眺め富士の秀峰を望む。而も空氣清澄にして四時春の如し。

教育方針 調布分園と同じ

運動 野球、キャッチボール、フットボール、ピンポン、高跳、角力、遠足、競技會、水泳

娛樂 將棋、トランプ、魚釣、連珠、文藝(雜誌)

一七



鳥 喰 農 場

（投稿）

（四）鳥喰農場

所在地 千葉縣山武郡横芝町鳥喰下

二四四九番地

（總武線松尾驛より約十五町）

設立の日 昭和五年四月

認可の日 昭和六年一月十六日

授業科目
 實科 農業實習
 修身、國語、地理、歴史、數學、珠算、世界ノ大勢、教練

土地の總坪數 田、五町六反、畑、六反三畝

棟數 七棟

總建坪數 百五十四坪

主任 一名

從業員數 職員三、準職員三、家族二

計八名

少年收容數 定員二十五名

實人員 八十三名
 延人員 一萬三千二百二十二名

創立以來の少年數



阜 月 學 園

（五）阜月學園

所在地 東京市向島區吾嬬町西七丁目二七番地

（電話墨田一七一四番京成電車

向島驛下車約三町）

設立の日 昭和三年十月十日

認可の日 昭和四年五月十四日

授業科目
 實科 ミッション、和裁、西洋洗濯
 學科 讀本、算術、書方
 技藝 活花、琵琶、長唄、琴、舞踊

土地の總坪數 六百坪

棟數 六棟

建坪 百三十九坪
 主任 一名
 従業員 四名
 少女收容 定員 三十名
 地勢 本園は京成電車向島停留所より東方約三丁の所に位置し、土地稍低平附近人家多きも比較的閑静なり。

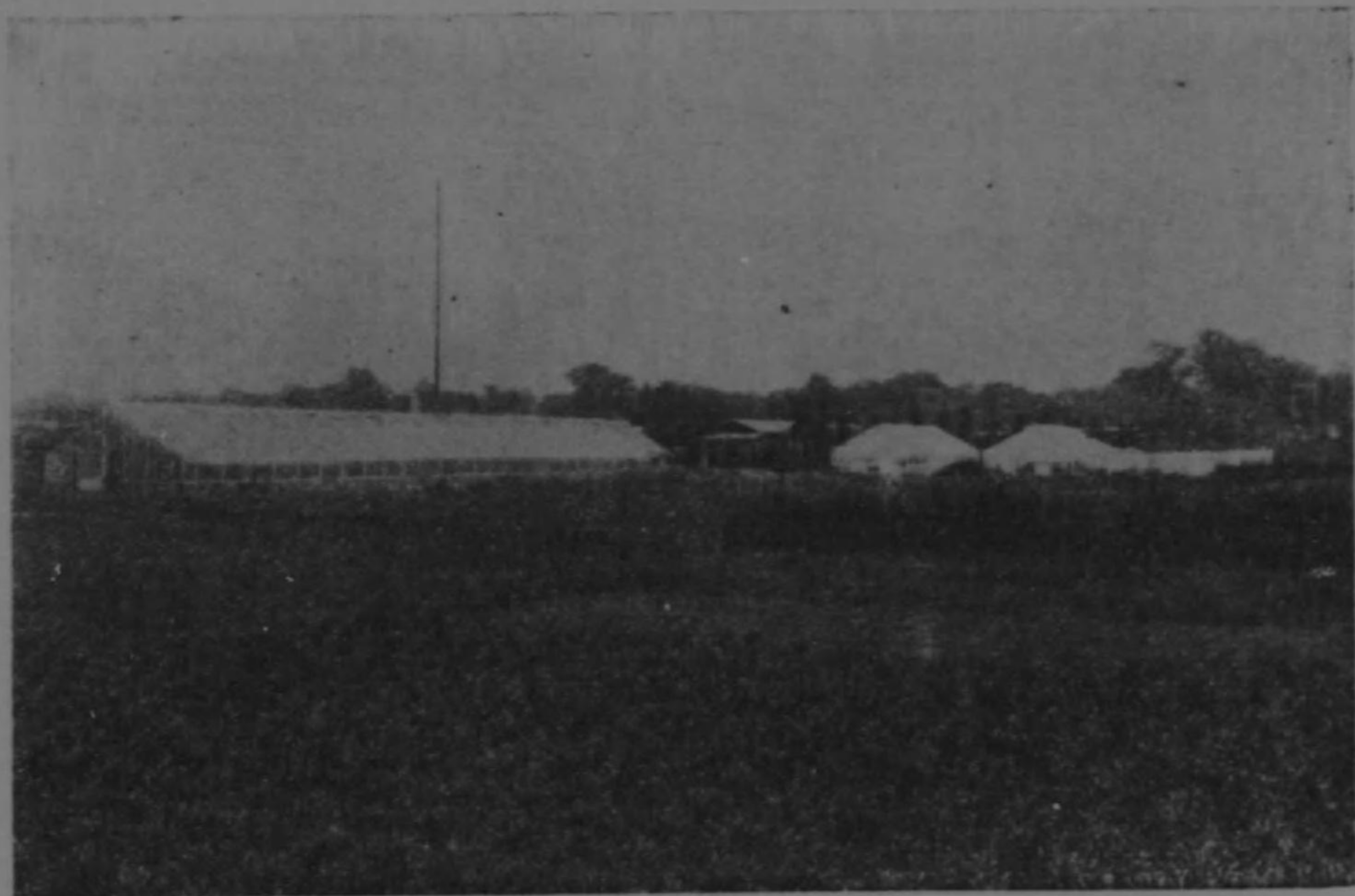
同創立以来の少女數 實人員 百二名
 延人員 三萬七千五百三十名
 同家庭委託の少女數 實人員 十三名
 延人員 三千一百十三名
 現在の少女數 五名 但三月末日迄

(六) 皐月學園洗濯部 (同所地内に設く)

設立の日 昭和八年五月
 授業課目 一般西洋洗濯
 作業場 二棟 建坪三十二坪
 主任 一名 従業員 四名

本園は皐月學園の敷地内に設け成績良好なる少年の將來の授職の目的を以つて本業の講習を成しつゝあり

(七) 調布温室部



調府第二農場(温室部)

所在地 東京府北多摩郡調布町小島

分品川道北三四八番地

(京王電車調布驛ヨリ南(三丁))

設立の日 第一農場に同じ

土地總坪數 五千五百坪

棟數 十二棟 内温室五棟

總建坪數 四百十坪

主任 一名

職員 三名

地勢及教養方針 京王電車調布町停留場南へ約三

丁多摩川の清流を控へ、氣温々暖空氣清澄の地なり。

本園は温室による花卉野菜を主として栽培す。而して第一農場の委託少年の内成績優良にして本園に適せる者を詮衡し、小數の少年に個人的教養をなす目的なるを以て常に極めて小數の者を第一農場より通勤せしめ居れり。

(八) 調布織物部



調布第三織物部

所在地 東京府北多摩郡調布町小島

分品川道（京王電車調布停車場南（約三丁））

昭和八年四月九日

棟數 五棟

坪數 百四十坪

主任一名 職員二名 講習生若干名

備品 織機七臺 繰返機二臺

綿織物（布團地、服地）麻織物（ナフキン、テーブル

掛、ハンカチーフ、イスカ

バー地）

（九）六踏園家具部

目下本所區厩橋一ノ二〇番地に工場を設け和洋家具裝飾一切及製造をなし居れり。

右は園長が常に收容少年の將來のために獨立自營なさしむるには、時代の變遷と共に農業のみを主



家具部

體とせる從來の方針にては其目的を遂行するに足らざるを憂ひ、漸次各種の職業教育を施さんとの意志に基き、先づ調布に於ては簡易なる加工を多數の少年に試み、本所區厩橋作業所には各園より成績優良なる假退園生等を集め高級家具の製作を修得せしめんとて指導に力め居れり。

（十）淡路學園大阪事務所

所在地 大阪市天王寺區谷町九丁目廿九番地 電話 天王寺六〇五八番

本事務所は六踏園東京事務所の經營にして大阪少年審判所管轄區域の各分園（目下本園及び、印刷部に於ける保護一般に關する事務を總管するために、主任一名及び職員若干名を置き庶務、調度、保護教養の事務を執行し尙少年少女の相談及退園生の職業紹介等をなし居れり。

（十一）淡路學園

所在地 兵庫縣三原郡廣田村廣田組字僧谷一三八七



淡路學園

二四

設立の日 昭和五年八月
 認可の日 昭和五年十二月十九日
 授業の課目 (實科 農業ノ實習ヲ課ス
 學科 國語、算術、修身)
 土地總坪數 一町五段
 棟數 二棟
 建築坪數 一百三十三坪
 從業員數 職員三名 準職員一名
 計四名
 少年收容數 定員 二十五名
 創立以來の少年數 實人員七十三名
 延人員二千四百八十名
 現在少年數 十六名

地勢 本園の所在地は淡路島の中央稍東南に位し
 土地高燥なり。四圍は名所舊跡に富む氣候温暖
 空氣清澄にして少年の心身陶冶するに絶好の地
 なり當園は最初同郡沼島にありしが十年十二月
 當地に移轉をなし沼島學園なりし舊稱を淡路學
 園と改稱す。



淡路學園大阪印刷部作業場

(十二) 淡路學園大阪印刷部
 職業指導所

所在地 大阪市東成區林寺町二百七十一番地

設立の日 昭和六年十一月十二日
 認可の日 昭和六年十二月十九日
 授業の課目 (實科 一般印刷製袋製造
 學科 修身、國語、算術)
 土地總坪數 三百坪
 棟數 二棟
 建築坪數 一百五十二坪
 從業員數 主任一名 職員五名
 作業員 男四 女六
 定員二十名
 少年收容數 定員 二十名
 創立以來の少年數 (實人員 一百四十五名
 延人員 一萬六千三百五十名)

二五



高崎農場

二六

同家庭委託 實人員 十四名
 現在少年數 延人員 二千七百十二名
 十六名

教養方針 他分園に同じ

運動娛樂 起床後、兵式體操、ラヂオ、蓄音器等

(十三) 高崎農場

所在地 群馬縣北甘樂郡平岩村大字
 大明神(信越線高崎驛下車)

地勢 西上州に位し淺間の噴煙を仰ぎ、秩父連山
 妙義、赤城、榛名の秀峰を望む、四圍に人家な
 く全く都會の喧噪より離る。

土地の總坪數 一萬二千坪

棟 數 二棟 三十六坪

從業人員 主任以下五名

少年收容數 定員 五名

授業課目 農業、果樹、栽培

教養方針 他分園と同じ



高鍋學園

(十四) 高鍋學園

所在地 宮崎縣兒湯郡上江村大字上江

(日豊線高鍋驛下車西へ約二
 里、乗合自動車の便あり)

設立の日 昭和六年四月一日

授業課目 一般農業

土地總坪數 六千七百五十坪

從業員數 主任一名 外四名

少年收容數 定員五名

地勢 四圍に人家なし閉靜なる平坦地

教養方針 他分園に同じ

(十五) 養素部

所在地 東京市本所區厩橋一丁目二

設立の日 昭和九年七月十五日

二七



スナラウ料飲壯強

從業員主任一名、職員二名、配給員十名
 生產品 強壯飲料ウラナス及其他滋養食品の製造
 設立の趣旨 農場生産品を加工して都會人の必須飲料及食料品を製造し以て農村工業經營の實際指導を爲す。

入園及在園費

少年法第二章第四條の五號に

寺院教會保護團體又は適當なるものに委託すること、

の規定に基き、司法省より認可されたる保護團體なるも、必ずしも現に犯罪的行爲のあるものに限らず、家庭又は環境の不良より其儘放任すれば悪化の虞あるものに對しても、親權者又は後見人より申出であれば

一、家庭狀況

生活狀況、資産及收入程度、家族各人の氏名、年齢性質、家族各人近親の遺傳疾病

二、本人の經歷

出生より今日に至る境遇閱歷、幼時よりの疾病並に現在の健康狀態、學校に於ける學業操行健康の狀態

三、入園事由

具體的不良性癖、初發期及其後の具體的不良行爲等を調査し改良の見込みあるものは假令十八歳を超過したるものと雖も、左記の規定により入園を許可す。

四、六踏園入園規定

第一條 本園ニ入園セントスルモノハ氏名年齢記入ノ上入園願書ニ戶籍謄本ヲ添付シ、父兄、親權者又ハ保證人ヨリ差出サルベシ

第二條 入園ノ許否ハ詮衡ノ上ヲ決ス

但少年法ニヨル少年ハ少年審判所ノ委託ニヨリ入園セシム

第三條 委託者及保證人ノ住所氏名等ニ異動アリタルトキハ速ニ届出ラレタシ保證人變更ノ場合ニハ委託書ヲ別ニ差出サルベシ

第四條 退園ノ場合ニハ其旨保證人ヨリ届出ラルベシ

第五條 園費ハ一ヶ月金貳拾圓トシ毎月五日迄ニ前納セラルベシ
 但家庭ノ事情ニヨリ園費ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトアルベシ

第六條 入園中病氣其他ノ事情ニテ臨時費用ノ生ジタル時ハ其實費ヲ支拂フベシ

第七條 入園中ノ寢具及被服等ハ委託者負擔ノ事

第八條 入園ノ際左記様式ノ委託書ヲ差出サルベシ

委託證書式

三錢收
入印紙

委託證書

原籍

氏

生年月日

右之者貴園へ入園方御許可相成候ニ付テハ貴園御規則ヲ堅ク相守ラセ可申又本人一身上ノ事ハ拙者共ニ於テ其ノ責ニ任ジ可申候萬一不慮ノ異變相生ジ候トモ決シテ苦情申出デ間敷候尙本人ガ貴園ニ對シ御迷惑相懸ケ候様ノ場合ニハ必ズ引受ケ夫々處理可仕候依テ爲後日本書差入候也

昭和 年 月 日

住所

本人トノ續柄

住所

委託者

氏

名

本人トノ續柄

住所

保證人

氏

名

六踏園東京事務所御中

假退園及退園

一、假退園 在園少年にして改悛の狀顯著なるものに對しては、少年審判所、委託少年は、審判官へ、家庭委託少年は保護者に報告し、本人の希望を徴して、各自好む職業に就かしめ、或は家庭に歸らしむるも、東京事務所に於て常に之れを觀察保護すると同時に、本人を鼓舞激勵して眞面目に勤むる様訓戒をなす等將來安定の便を圖り居れり。
尙假退園中は收容中の貯金の全部を園にて保管し、必要に應じ支拂ふ事となし、社會に獨立して全く大過なしと信するに至り、始めて處分解除の申請をなす。尙假退園生にして其の後の成績不良の場合は、協義の上何時にても審判官より復園を命ぜらるゝ事あり。
一、退園 在園中特に成績良好なるものには、少年審判所より退園を命ぜらるゝ事あるも全々保護者なき場合等には、其儘園の雜役として、園にて使傭して、相當手當を給し再び過ちなからん事を圖り居れり。

少年ニ關スル調査表

一、創立以來入園少年本籍府縣別（但シ十一年三月末日迄ノ分トス）

府縣名	性別		計	府縣名	性別		計	府縣名	性別		計
	男	女			男	女			男	女	
東京府	二五九	三五	二九四	青森	二八	一	二九	福井	一五		一五
神奈川	六九	六	七五	静岡	一八	三	二一	岩手	一五	二	一七
埼玉	七		七	山梨	一〇		一〇	島根	六		六
群馬	三四	三	三七	愛知	一九	二	二一	鳥取	六		六
千葉	四〇	六	四六	岐阜	一〇		一〇	兵庫	三〇	一	三一
茨城	四六	九	五五	三重	一一		一一	岡山	一九	三	二二
栃木	三六	四	四〇	長野	三四	一	三五	廣島	一一	一	一二
福島	三七		三七	滋賀	一二		一二	山口	一五		一五
宮城	一七		一七	新潟	三一	三	三四	京都	一一		一一
山形	一六		一六	石川	一四		一四	大阪	五〇	二	五二
秋田	二五	一	二六	富山	一六		一六	和歌山	八		八

二、入退園ノ狀況

府縣名	入	退	現在
奈良	一〇	六	三八
徳島	一一	七	二
香川	四	八	一〇
愛媛	七	三	一一
高知	九	一	一一
福岡	一二	四	一〇
大分	六	六	三
佐賀	七	七	二
長崎	八	八	一〇
熊本	三	三	一〇
宮崎	一	一	二
北海道	三一	四	二六
朝鮮	三五	一	三三
臺灣	二	二	二
鹿兒島	一〇	二	一〇
不明	一〇	二	一〇
計	一、二六六	一、三〇三	一、二六八

性別	入園		退園				現在		
	審判所委託	家庭委託	改修	委託變更	處分變更	事故	死亡	審判所委託	家庭委託
男	一、二五	五	五〇	五	三〇	四三	二	九〇	一三
女	八五	七	五	〇	七	三	二	一	一
計	一、三三〇	一二	一、〇五	五	三七	四六	四	九一	一四
計	一、三六八	一二	一、〇八四	五	四〇	四九	六	一〇一	一三

計	女	男	性別	
			年	別
三		三	十	歲
三	一	二	十一	歲
二	一	一	十二	歲
七	二	五	十三	歲
八		八	十四	歲
七	一	六	十五	歲
二	一	一	十六	歲
七	二	五	十七	歲
二	一	一	十八	歲
三	一	二	十九	歲
四	三	一	二十	歲
六	二	四	廿	歲以上
一、二八八	一〇二	一、一八六	計	

五、收容當時の年齢

計	人員							
	不明ノ者				私生子		庶子	
	女	男	女	男	女	男	女	男
	三〇	三〇	二					
	三三	一八三			一八			
	二六	一一三		一	二〇			
	一三	二一〇	一					
		四			五			
	二	二〇			七			
		一〇	四					
		二			六			
	二	二			八			
		六	三					
	六	八	一		二			
	一〇	九			一			
	三	三						
	五	三			四			
	三	四			三			
一〇	一、一八六	二	一、二	三	一〇五	四	七	

四、出生ト保護者關係

嫡出子	女	男	保護者						
			實母	實父	實母ノミ	實父ノミ	繼實母	繼實父	繼實母ノミ
	二〇	二九							
	三三	一四九							
	一五	一〇五							
	三	一九							
		三							
	三	七							
	三	六							
		七							
		三							
		二〇							
		五							
	五	三							
	七	五							
	三	一〇							
	五	九							
九	九三		計						

三、入園事由（行為ノ表示）

死體遺棄	殺人未遂	放火	詐欺	横領	窃盜	事由性別	
						男	女
	三	四	三九	二七三	六九九		
一		六		三	七七		
					七七六		計
一	三	一〇	三九	二八六			
浮浪	ノ	家出	鐵道營業	傷害	脅喝	事由性別	
四	ノ	二	三	七	三〇	男	
二	五	一〇				女	
	四	三				計	
四	四	二	三	七	三〇		
	五	二	三	七			
計	不	強	強	強	賭博	事由性別	
	明	姦	姦	盜	博	男	
一	三	三	四	六	三	女	
一						計	
一、三六	三	三	四	六	三		
一、三八							
	三	三	四	六	三		

六、收容當時の教育程度

計	女	男	性程度	
			女	男
五		五	以學卒、中	
二一	三	一八	校中等學	
八〇	五	七五	退校中等學	
二二六	五	二二一	學高等小	
一二五	九	一一六	業以上卒	
四四三	五〇	四〇三	卒業六	
五九	一一	四八	以上尋五	
五三	三	五〇	以上尋四	
七〇	二	六八	以上尋三	
五三	二	五一	以上尋二	
七二	七	六五	以上尋一	
四四	三	四一	未就學	
二七一	二	二五一	不明	
二八八		一〇二	計	

七、不良行爲ノ經過（不良行爲ノ原因）

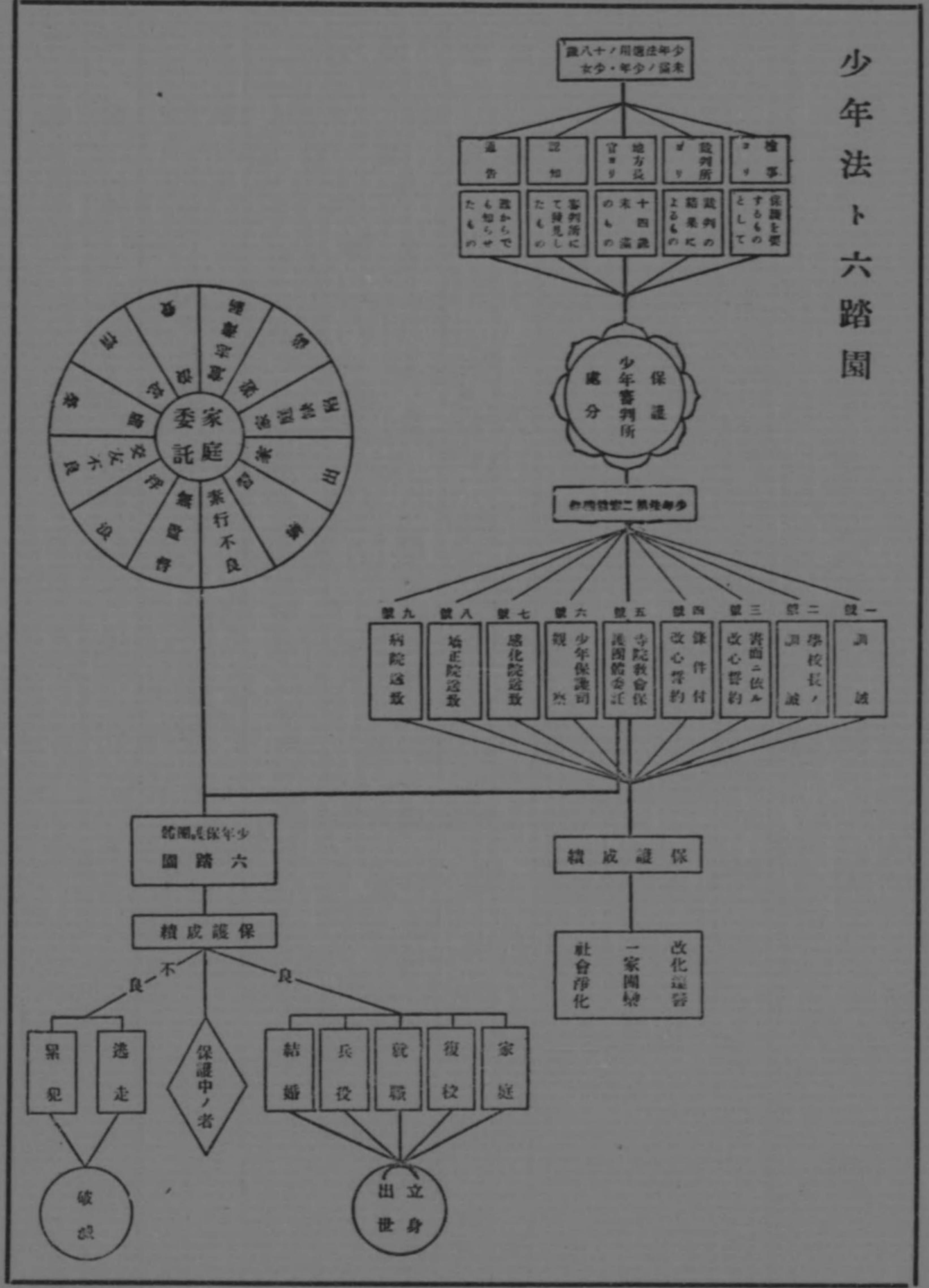
原因	性別		計
	男	女	
身體缺陷	一五	三	一八
精神缺陷	一九	五	二四
家庭缺陷	一八〇	三二	二一二
無監督	一三〇	九	一三九
虛榮	一五	二一	三六
境遇不良	四七		四七
交友不良	三六	二	三八
無教養	一五		一五
習癖	六〇	一九	七九
貧困	一九〇		一九〇
慕郷	一三		一三
失戀	二		二
原因不明	一〇三	五	一〇八
計	一一六	一〇三	二一九

八、創立以來退園生ノ在園期間

計	女	男	死亡		事國故		退園		退園期間
			女	男	女	男	女	男	
二九		四九七		二	二〇	三五〇	九	一四五	一年內
三一		四七二	一	七	一〇	八〇	二〇	三八五	一年以上
二一		八四		一	七	二〇	一四	六三	二年以上
一五		三一			四	一三	一一	一八	三年以上
五			一		二		二		四年以上
一〇一		一、〇八四				四六三	五七	六一一	五年以上
									計

遊蕩	利慾	怨恨
六〇	二〇〇	四
六〇	二〇〇	七
七	四	七

少年法ト六踏園



役員

同	同	同	評議員	監事	同	同	同	同	理事
同	同	同	檢察總長	元大審院判事	同	同	同	同	園長
同	同	同	司法省刑事局長						副園長
同	同	同	司法省保護課長						園長
同	同	同	東京市保健局長						園長

中川	中川	宮城	星野	杉原	中尾	横井	石田	光行	岩村	森山	宮川
庫	定	長	野	英	芳	武	諭	次	通	市	宗
吉	太郎	五	太	太	助	三	二	郎	世	郎	德

評議員

東京市社會局長

東京府職業課長

工學博士

理學博士

修德商業學校校長

立德商業學校校長

社立興業株式會社

專務取締役

顧問

拓務大臣

貴族院議員

同

代議士

元貴族院議員

兵庫縣伊丹區裁判所檢事

同

元檢事辯護士

同

農林省技師

同

文學博士

同

海軍軍醫大佐

同

囑託保護司

同

東京私設社會事業聯盟主事

同

東京私設社會事業聯盟主事

同

東京私設社會事業聯盟主事

同

東京私設社會事業聯盟主事

同

東京私設社會事業聯盟主事

四〇

逸

謹

貞

友

禮

兵

稻

橋

山

秀

次

之

善

切

五

重

廉

爾

滿

助

郎

郎

郎

藏

太

駒

次

欣

見

邊

山

半

三

乃

和

夫

輔

郎

真

郎

寬

生

二

申

原

井

井

山

豐

井

井

山

井

山

澤

井

部

伊

崎

田

禮

治

吉

吉

治

與

滿

郎

助

郎

郎

藏

太

駒

次

欣

見

邊

山

半

三

乃

和

夫

輔

郎

真

郎

寬

生

二

申

原

井

井

山

豐

井

井

山

豐

井

山

井

井

山

豐

井

(順序不同)

(順序不同)

323
5-18-

昭和十一年十月廿五日印刷
昭和十一年十一月一日發行

【非賣品】

發行所 東京市本所區既橋一ノ廿番地
六踏園東京事務所

編輯人 東京市本所區既橋一ノ廿番地
橫井武二

印刷所 東京市京橋區木挽町三丁目十一
丸ノ内印刷所

